

NPO法人 龍ヶ崎ゲヴァントハウス特別企画 講演とコンサート 第3回 蘇る往年の名演奏

今回のCDコンサートは、秋の特別企画として、3年ぶりに音楽・オーディオ界の第一人者、元フィリップス・レコード・オランダ本社副社長、新 忠篤氏をお招きし、「第3回 蘇る往年の名演奏」と題して、講演とコンサートを行います。

新氏は月刊「ラジオ技術」及び、季刊「管球王国」等に執筆され、オーディオ界では特にその名を知られた存在です。氏が編集され、大きな反響を呼んだ飛鳥新社出版のモーツァルト“伝説の録音”をはじめ、これまで氏自身が開発した「SPレコード再生用イコライザー」を通じたDSDレコーディングは、従来の方式に較べて中音から低音にかけての音の形が明瞭で、高音は一度剥けた感じになり、SPレコードを望みうる最高の音質で聴くことができます。イコライザーには直熱3極管を使用した可変イコライザーを使用しレコード毎にイコライザーの調整、再生信号をDSD形式で録音しレコードに記録されている情報をそのままマスター化しています。またノイズ除去と共に失われる音楽情報に最も気を配り一切のノイズリダクションを使用していません。高音質による往年の名演奏をお楽しみ下さい。

日 時：2022年9月10日(土) 午後2時～午後4時30分(休憩10分)

場 所：龍ヶ崎市 市民活動センター 2階大会議室

講 師：新 忠篤氏(オーディオ研究家、元フィリップスレコード・オランダ本社副社長)

テーマ：第3回 蘇る往年の名演奏

〈新 忠篤氏プロフィール〉

1939年、東京生まれ。元フィリップスレコード・オランダ本社副社長。フィリップス・クラシック社時代に小澤征爾、内田光子ら日本人アーティストの世界市場での販売、展開を手掛ける。コロムビア時代のDXMシリーズの復刻、飛鳥新社出版の、モーツァルト“伝説の録音”の編集・復刻を担当。2015年宮内庁が戦後70年にあたり、昭和天皇が国民に終戦を伝えた玉音放送の原盤の再生を氏に依頼、テレビでも紹介された。現在はフリーランスでSPレコードからの復刻CD企画、オーディオ用真空管アンプの設計、製作を続ける傍ら、「新忠篤オーディオ塾」を主幹、雑誌「管球王国」、「ラジオ技術」等に執筆。

プログラム

ラフ：カヴァティーナ作品85-3

巖本真理(vn)/鷺見五郎(p) (1958年発売のモノLP録音)

サラサーテ：序奏とタランテラ 作品43

辻 久子(vn)/田中園子(p) (1944年のSP録音)

ヨハン・シュトラウス2世：春の声 作品410

エルナ・サクク(sop)

ハンス・シュミット＝イツセルシュテット指揮ベルリン国立歌劇場管弦楽団(1935年4月2日のSP録音)

ブルッフ：ヴァイオリン協奏曲第1番ト短調作品26

ゲオルク・クーレンキャンプ(vn)

ヨーゼフ・カイルベルト指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団 (1941年ベルリンでのSP録音)

ベルリオーズ：幻想交響曲作品14より第5楽章：魔女の祝日の夢

ブルーノ・ワルター指揮パリ音楽院管弦楽団(1939年5月19-20日パリ、ピギャール劇場でのSP録音)

~~~~~ 休憩10分 ~~~~~

プロコフィエフ：ピアノ協奏曲第3番ハ長調作品26

セルゲイ・プロコフィエフ(p)/ピエロ・コッポラ指揮ロンドン交響楽団(1932年6月28日のSP録音)

ドップラー：ハンガリー田園幻想曲作品26

マルセル・モイーズ(fl)/ルイ・モイーズ(p) (1934年5月24日ロンドンでのSP録音)

フォーレ：夢のあとに

マギー・テイト(sop)/ジエラルド・ムーア(p) (1941年3月26日ロンドン、EMI第3スタジオ録音)

ベートーヴェン：交 曲第 7番イ長調作品92より第4楽章：アレグロ・コン・ブリオ

ルネ・レイボヴィッツ指揮ロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団(1961年4月5-7日のステレオ録音)

★ホームページアドレス <http://gewandhaus.sakura.ne.jp/wp/>

# 新 忠篤氏による演目解説

## 1. ラフ: カヴァティーナ作品85-3 (3:58)

巖本真理 (ヴァイオリン) / 鷺見五郎 (ピアノ)

日TOSHIBA RECORDS JCO 1007 (1958年発売のモノLP録音) (グッディーズ33CDR-3469)

作曲者のヨアヒム・ラフ(1822-1882)はスイス生まれ。スイスを訪れたフランツ・リスト(1811-1886)のコンサートを聴き、感動してリストの演奏旅行についてドイツに行く。一時スイスに戻ったが、1849年正式にリストの助手としてドイツのヴァイマルに移住し、1877年にフランクフルト高等音楽院の院長になった。交響曲、協奏曲、室内楽曲、ピアノ曲、声楽曲を多数作曲したが、現在は小品以外はあまり演奏されない。カヴァティーナはヴァイオリンとピアノのための6つの小品(1859)の3曲目。ヴァイオリンの巖本真理(1926-1979)は東京生まれ。6歳からヴァイオリンを始め、小野アンナ(1898-1979)に師事した。1937年12歳の時、日本音楽コンクールで第1位をとり、1939年にデビュー・リサイタルを開いた。1946年から5年間東京音楽学校(現東京藝術大学音楽学部)の教授をつとめた後、1951年に渡米ジュリアード音楽院でレイ・パーシガー(1887-1967)、ジョルジュ・エネスコ(1881-1955)に師事し、翌年帰国しソロ奏者として活躍した。1964年に巖本真理弦楽四重奏団を結成して活躍した。伴奏の鷺見五郎(すみごろう)(1916-2000)はピアニストでオルガン奏者、作曲家。

## 2. サラサーテ: 序奏とタランテラ 作品43 (4:37)

辻 久子(ヴァイオリン) / 田中園子 (ピアノ)

日ニッポク JW723B (1944年のSP録音) (グッディーズ 78CDR-3880)

サラサーテ(1844-1906)はスペイン生まれのヴァイオリニスト、作曲家。8歳の時、初めて公開演奏をし、10歳のときスペイン女王イサベル2世の前で演奏を披露した。その後パリ音楽院に学び13歳でヴァイオリン科の一等賞を得た。1904年にラッパ吹き込みで10枚のレコードを吹き込んだ。代表作「ツイゴイネルワイゼン」作品20と一緒にこの「序奏とタランテラ」も吹き込んでいた。ヴァイオリンの辻久子(1926-2021)は天才少女として1935年9歳でリサイタル・デビュー。1938年毎日新聞社主催の音楽コンクール・ヴァイオリン部門で第1位になり、その後第一線で活躍した。織田作之助の短編小説「道なき道」主人公の少女・寿子(ひさこ)のモデルとなった。1984年、父・吉之助との生活を題材にしたドラマ「弦鳴りやまず」が毎日放送によりTVシリーズ化され、久子自身も出演した。

## 3. ヨハン・シュトラウス2世: 春の声 作品410 (4:48)

エルナ・サック (ソプラノ) / ハンス・シュミット=イツセルシュテット指揮ベルリン国立歌劇場管弦楽団

独 TELEFUNKEN E-1774 (1935年4月2日のSP録音) (グッディーズ 78CDR-3842)

オーストリア生まれの作曲家ヨハン・シュトラウス2世(1825-1899)は1844年に自らの楽団を組織してヨーロッパ各地で演奏し、ウィenna・ワルツの全盛時代を築いた。「春の声」は1882年に親友のピアニストで作曲家のアルフレート・グリユンフェルト(1852-1924)に捧げられた。ソプラノのエルナ・サック(1892-1971)はベルリン生まれ。「ドイツのナイチンゲール」と言われ人気を得た。戦前の批評家あらえびすはその著書「名曲決定盤」で彼女の魅力を述べていた。指揮者のハンス・シュミット=イツセルシュテット(1900-1973)はドイツ生まれ。ハンブルク国立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ総監督、戦後は北ドイツ放送交響楽団の指揮者として活躍した。

## 4. ブルッフ: ヴァイオリン協奏曲第1番ト短調作品26 (24:41)

ゲオルク・クーレンキャンプ(ヴァイオリン)

ヨーゼフ・カイルベルト指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団

独 TELEFUNKEN SK3712/4 (1941年ベルリンでのSP録音) (グッディーズ 78CDR-3846)

作曲者のマックス・ブルッフ(1838-1920)はドイツ生まれ。オペラ、管弦楽伴奏付きの合唱作品から交響曲、室内楽、ピアノ曲と多くの作品を残した。特にこのヴァイオリン協奏曲第1番は傑作。それは時の大ヴァイオリニスト、ヨーゼフ・ヨアヒム(1831-1907)多くの助言を得たからと言われている。ヴァイオリンのクーレンキャンプ(1898-1948)はドイツのブレーメン生まれ。第2次世界大戦中はソリストとして活躍する傍ら、ベルリン高等音楽院の教授を1943年まで務めた。1944年にスイスのルツェルン音楽院教授になったが、1948年50歳を迎えて間もなく急逝した。この録音はクーレンキャンプの第1回目の録音で、第2回は1947年にカール・シューリヒト指揮で英DECCAに録音した。指揮者のカイルベルト(1908-1968)はカールスルーエ生まれ。終戦時にドレスデン・シュターツカペルシの指揮者だった。1955年、1965年、1968年に単身来日しNHK交響楽団を指揮した。

## 5. ベルリオーズ: 幻想交響曲作品14より第5楽章: 魔女の祝日の夢 (8:53)

ブルーノ・ワルター指揮パリ音楽院管弦楽団

英HMV DB3857A/B (1939年5月19-20日パリ、ピギヤール劇場でのSP録音)  
(グッディース 78CDR-3764)

大指揮者ブルーノ・ワルター(1876-1962)はナチスのオーストリア併合による迫害を避けてフランスを経由してアメリカに逃れた。この「幻想交響曲」は短かったフランス滞在中に行われ、ワルターの唯一の「幻想交響曲」で以降LP時代にも再録音はなかった。

## 6. プロコフィエフ: ピアノ協奏曲第3番ハ長調作品26 (24:42)

セルゲイ・プロコフィエフ (ピアノ)

ピエロ・コッポラ指揮ロンドン交響楽団

英HMV DB 1725/7 (1932年6月28日ロンドン、アビー・ロード EMI第1スタジオでのSP録音)  
(グッディース 78CDR-3794)

プロコフィエフ(1891-1953)は帝政ロシア時代のウクライナ、現ドネツク州生まれ。13歳でサンクト・ペテルブルク音楽院に入り作曲とピアノを学んだ。1918年のロシア革命を機にシベリア鉄道に乗り日本経由でアメリカに行き、その後ヨーロッパで活躍し1933年に祖国に復帰した。この録音は西欧滞滞時代の最後の頃にロンドンで行われた。作曲者自身のピアノが聴ける貴重な録音。この曲の第3楽章に作曲者が日本で聴いた「越後獅子」の旋律が出てくる。指揮者のピエロ・コッポラ(1886-1971)はミラノ生まれ。HMV系列の仏GRAMOPHONE社の専属指揮者をつとめ、多くの世界初録音の指揮をした。

## 7. ドップラー: ハンガリー田園幻想曲作品26 (11:25)

マルセル・モイーズ (フルート) / ルイ・モイーズ (ピアノ)

日 COLUMBIA J2575/6 (1934年5月24日ロンドンでのSP録音 (グッディース 78CDR-3798))

ドップラー(1821-1893)はフルート曲で有名なハンガリーの作曲家。18歳でブダペスト歌劇場の首席フルート奏者になり、後にウィーン音楽院の教授もつとめた。マルセル・モイーズ(1889-1984)はフランスの名フルート奏者。14歳でパリ音楽院に入りポール・タファネルとフィリップ・ゴーベール(1879-1941)に師事して研鑽を積んだ。1932年からパリ音楽院教授をつとめた。戦後、日本でも教育活動を行った。ピアノのルイ・モイーズ(1912-2001)はマルセルの息子。パリ音楽院で父親にフルートを師事した。ピアニスト、作曲家でもある。

## 8. フォーレ: 夢のあとに (2:42)

マギー・テイト (ソプラノ) / ジェラルド・ムーア (ピアノ)

英 HMV DA1777A (1941年3月26日ロンドン、アビー・ロード EMI第3スタジオ録音)  
(グッディース 78CDR-3681)

マギー・テイト(1888-1976)はイングランド中部のウルバー・ハンプトン生まれのソプラノ。パリでジャン・ド・レスケ(1850-1925)が創立した歌劇学校に入学した。1908年に作曲家のクロード・ドビュッシー(1862-1918)の「ペレアスとメリサンデ」のヒロイン役を歌い、初演歌手のメアリー・ガーデン(1874-1967)の後継者になった。

## 9. ベートーヴェン: 交響曲第7番イ長調作品92より 第4楽章: アレグロ・コン・プリオ (7:10)

ルネ・レイボヴィッツ指揮ロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団

日 READER'S DIGEST RBS 5 1961年4月5-7日ロンドン、ウォルサムストウ・タウン・ホールでのステレオ録音 (グッディース 33CDR-3714)

指揮者のルネ・レイボヴィッツ(1913-1971)はポーランドのワルソー生まれ。1926年から家族と共にパリに定住。1930年から33年にベルリンでアルノルト・シエーンベルクに、ウィーンでアントン・ウエーベルン(1883-1945)に師事して作曲を学んだ。さらにパリでオーケストレーション法をモーリス・ラヴェル(1875-1937)に、指揮をピエール・モントゥー(1875-1964)に学んだ。1936年から指揮者としての活動を始め、数年の内に名声を高めたが第2次世界大戦の勃発で指揮活動から退き、作曲や著作に専念するようになった。戦後になって再び指揮者として復帰した。この目が覚めるような指揮ぶりはベートーヴェンが現代に蘇った印象を与える。